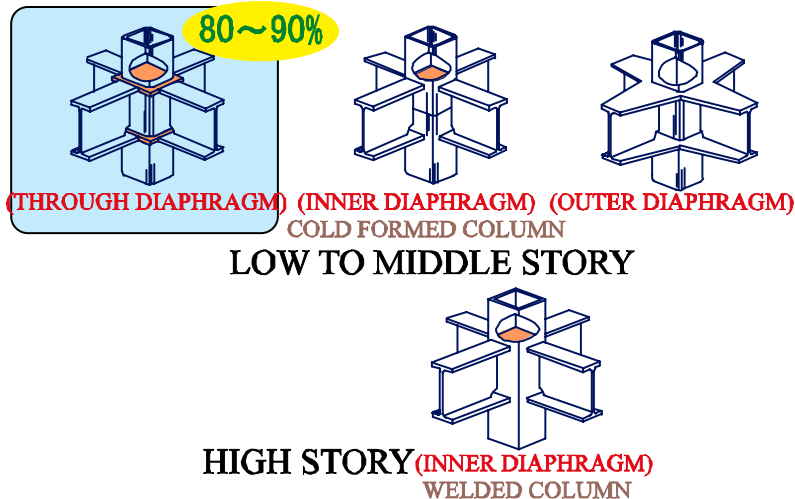


まず、このたびの日本での大地震・津波による災害に対し、世界中の方々からのご支援・激励をいただきましたことに、深くお礼申し上げます。復興にはまだまだ長い年月がかかると思いますが、日本国民の総力を挙げて復興に向けて努力して参りますので、今後とも皆様の暖かいご支援をよろしくお願いいたします。

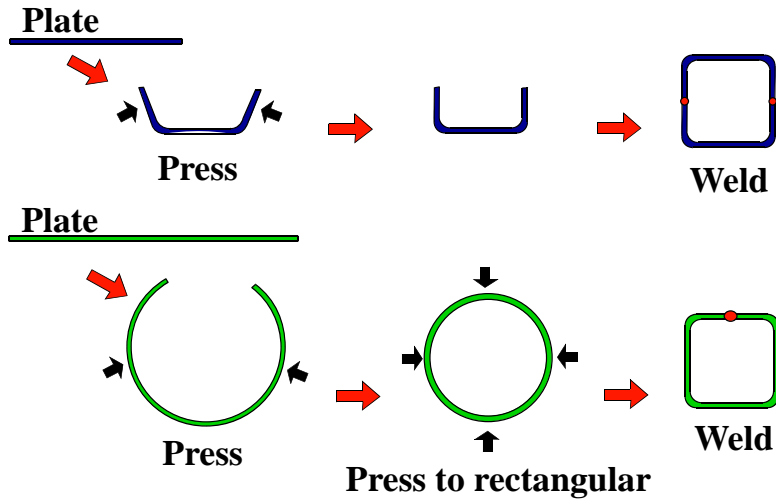
振り返ってみれば、日本の建築物に関する規準は大震災のたびに改定されてきました。数々の震災の経験を通し、その原因を考慮して欠点・弱点をできるだけ排除し、構造安全性を増大するために定めてきたといえます。このため、大地震の発生がまれな国の規準とは多くの点で異なり、日本独特の寸法精度管理、柱梁接合部の特殊性、鋼材選択の慎重性等が規準に反映されています。

こうした背景を考えると、地震国用としての新たなる施工等級を加えていただき、日本で定められた耐震性優先の規準ができるだけそのまま使用できるようにしていただきたいと思います。そうすることで、非地震国用と日本のような地震国用の2種類の基準を細かく見比べ、調整するという多大な努力を省くことができることになります。

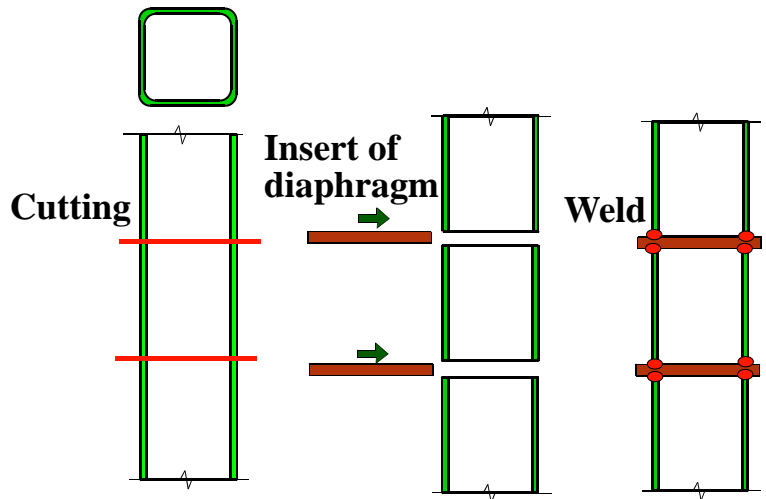
どうか皆様のご理解をいただきたく、よろしくお願いいたします。



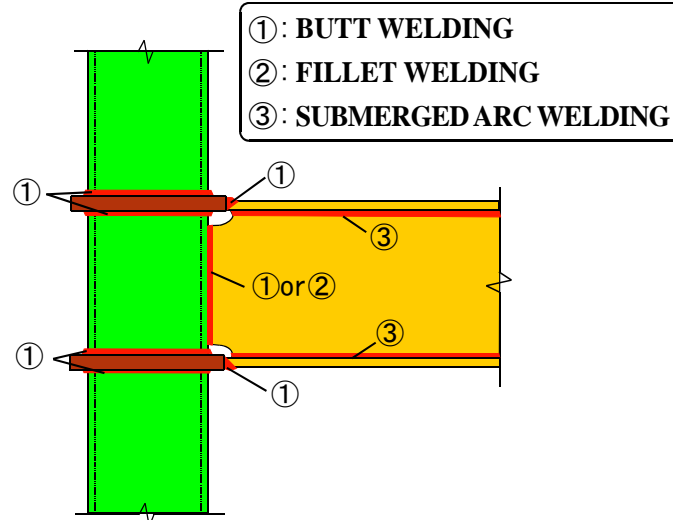
Connection method in Japan



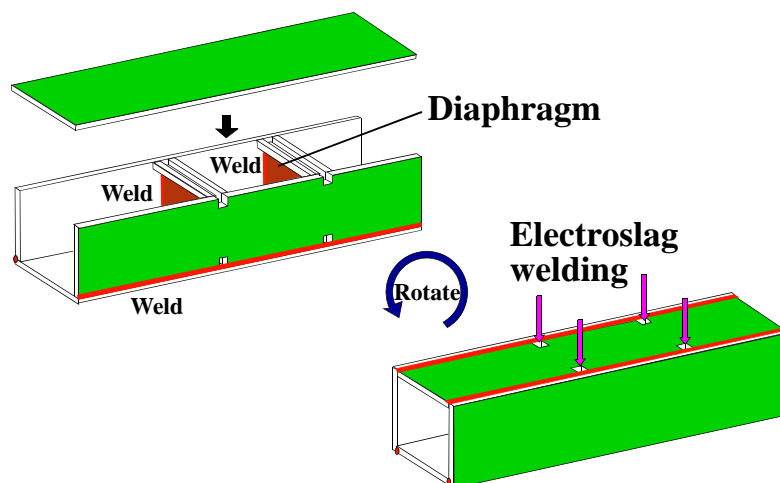
Cold formed column



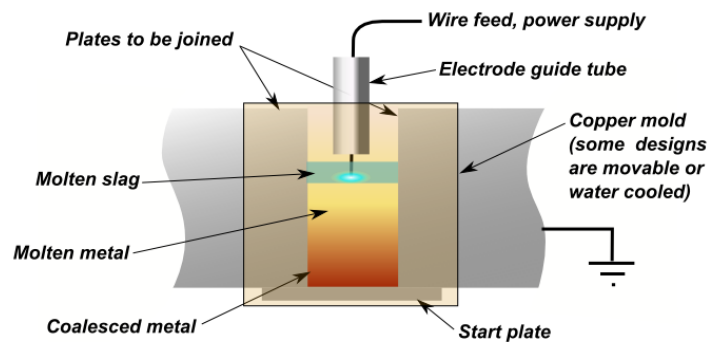
Diaphragm for cold formed column



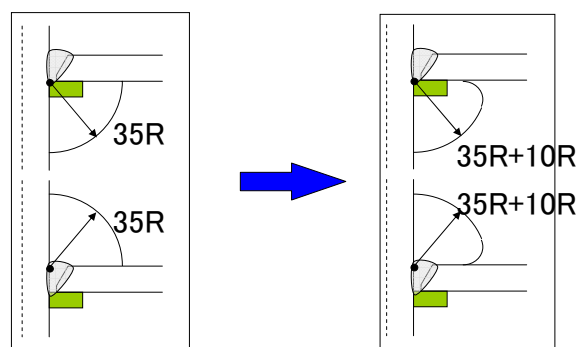
Welding against earthquake



Diaphragm for welded column



Electroslag welding



1980~1995

1996~

(After Hyogoken-nanbu earthquake)

Scallop for beam-to-column connection (on-site weld)

ISO/TC167 @Dusseldorf/Germany 配布資料 -8



01_Cold forme column



02_Scallop at beam



03_Through diaphragm



04_Robot welding



05_Robot welding



06_Welding against earthquake

ISO/TC167 @Dusseldorf/Germany 配布資料 -9



07_Box Column(inside)



08_Corner welding



09_Make welding hole



10_Erectroslag welding



11_Erectroslag welding



12_Final condition

ISO/TC167 @Dusseldorf/Germany ENへのコメント

日本側は N79で配布されたEUROPEAN STANDARD(EN)にし、下記のコメントを発信(以下、一部抜粋し概要のみ表記)。

- ・EN 1090-2でもってISO 10721-2を差し替えようという提案のように思われる。
- ・ EN 1090-2がユーロコードを引用しているため、本文だけは全容を把握できない。アンブレラコード(包括的構造基準)を目指すのであれば、引用の仕組みの改善を図るべき。
- ・AJIにはない精度の規定がEN1090にある。
- ・管理許容差の規定において、AIJよりも厳しいものがある。
- ・日本ではJIS規格品または大臣認定品しか使用できないので、使用鋼材についての十分な調整が必要。
- ・日本では規定のないExecution Class があり、調整が必要。

ISO/TC167 @Dusseldorf/Germany ENへのコメント

- ・普通ボルトの孔径が高力ボルト並みであり、大き過ぎる。また、過大孔やルーズ孔が明確に規定され、日本の現状とは異なる。
 - ・溶接方法の規定のなかにエレスラ溶接が含まれているか。
 - ・溶接管理技術者の資格について、クラス分けが日本のものとうどう対応しているか、確認・調整が必要。
 - ・溶接後の非破壊検査の抜取検査等、方法が大きく日本と異なる。
 - ・基本許容差、機能許容差、Class1、Class2という区分があり、大きく日本とことなる。
 - ・日本特有の柱梁接合部(フランジ、ウェブ、スカラップの処理)の溶接方法の記述がない。
 - ・すべり試験の形状、寸法等が日本のものと異なる。
 - ・トルク計数の評価試験方法も日本のものと異なる。
- 全30項目あったが一つ一つ審議していただいた。(一部時間切れで次回に回された。)

ISO/TC167 @Dusseldorf/Germany 日本への要求

- ・欧州勢はEN1090をそのままISO規格にしようというというわけではなく、参加各国の意見を取り入れてより良い規格にしていこう、という姿勢が伺えた。(ただし、地震国と非地震国では相互理解の上で多難な道のりがあると思われる。)
- ・日本側が主張した鉄骨製作・鉄骨管理上の特殊性の根拠となる資料(英語版)の提出を求められた。具体的には以下を送付。
 - 建築学会 JASS 6 鉄骨工事 付則 6. (日本語版、英語版)
 - High strength bolt used in Japan
 - Holes for Bolts
 - Test for confirmation of slip coefficient
 - Welding joints hollow sections: JSSC T.R.No.39 (July 1997)
Kobe Earthquake Damage to Steel Moment Connections and Suggested Improvement
 - 「JSSC 建築鉄骨の基本」(目次の 英訳と日本語版)